

会員のひろば

■ 東光小学校のペンキ塗り作業に参加に参加して

光台5丁目 井上敏明



各地を転々として、この地に居を構え、小生なりに地域活動に参加し縁を広げてきました。

二人の子供はこの小学校へ転入して卒業しましたので思い出の場所と思い、7月26日（土曜日）東光小学校のペンキ塗り

作業（校舎内廊下の壁塗り）に参加しました。

シルバー人材センター会員として毎年行われている地域のボランティア活動に初参加しました。経験のない作業だったので不安でしたが当日は朝8時から猛暑の中、手ぬぐい・水筒等草刈り時の軽装で行くと、15名位の参加者の共同作業で、先生方は経験済みとのこと。作業前の打ち合わせで緊張も解け、和気あい

あいで楽しい一日となりました。

人生経験豊富な人達と汗をかきながら、瞠目しながらも見よう見まねで動いて連携プレイも良く順調に進み、気が付けば予定外の場所も塗り終わっていましたが、高温注意報が出ていたので午後の作業は中止して昼前に早めに終了することとなりました。

座談会では「冷やうどん」をすすりながらの雑談となり、いろいろと教えられるところもあっていい経験になりました。

心の思うままに自然体で体を動かすことを目的に、「知ろうとする意欲と地域社会に溶け込み少しでもお役にたてたら」との思いでいます。今後もシルバー人材センターや地域の活動に参加して行きますのでよろしく。

■ 剪定作業で思うこと

桜が丘1丁目 田中勝己



午前9時、静かだった公園に剪定用葉刈り機のエンジン音が響く、広い公園を取り囲むように6人が持ち場を決め分散、一斉にエンジンのスロットルを開くと快調に剪定が始まる。

剪定作業を始めた5年前は、なれない作業に大変な苦労があった。エンジンバリカンがない、発電機を持ち込んでの剪定は効率がよくない、まして発電容量が限られややもすれば回転がダウン、作業がはかどらない、前期の作業は5月末から6月に行われる。梅雨の蒸し暑さと雨、はかどらない作業にみんな疲れきった毎日だった。

剪定班、浅田班長の下に集まったのは同級生5人、みんな竹馬の友として過ごしてきたものたち、何でも話せるかわりに、下手な刈り込みをしようものなら、けんもほろろに罵声が飛んでくる。それぞれ現役時代には体験しないこと、一瞬顔が曇るが、そこは同級生心得たもの、お互い切磋琢磨の2年間であったように思い出される。

そんなこんなで3年目からは、経験を最大の武器として順調に作業を進めることができた。

いつも朝のミーティングで言葉にしたのは、“怪我をしない、無理をしない、怠らない”を、しっかりと肝に銘じ、励ましあったおかげで今日まで、事故もなく剪定作業をする事ができた。

我々も70才、無理はしない方針通り、昨年から1名が参入、6人で従前どおり光台、精華台の剪定を行っている。幸いなことに、昨年シルバーセンターの計らいでエンジン葉刈り機を各自で持つことができ、随分効率が上がり喜んでいる。また、それぞれの作業の腕前も上達、手前味噌だが、本職並みのできばえと自負しているところである。ただ、ここに至るまでは、前述したようにいろいろ紆余曲折しながらであったが、バックアップしていただいたシルバーセンターのお蔭と感謝している。

休憩時や昼ごはんの後など、寛ぎながらついで口に出ること「いつまでこの仕事ができるやろかなー」と耳にするが、何のことない、それぞれ皆の心うちは”俺はまだまだできるわい”と笑いながら会話する表情から見て取れるのが、なんとも頼もしい限りである。

まもなく後期の作業が始まるが、これからも年2回の小さな同窓会と、6人が長く長く健康で、楽しくこの仕事ができることを願うものである。